



第3回自然と親しむ子ども山登り教室無事終了！

最後の仙丈岳に5人全員が登頂し、今年も「自然と親しむ子ども山登り教室」が無事に終了しました。今年は、週末の天気が悪くて、すっきり晴れたことがなかったのですが、仙丈岳の最終日は、夜半からスッキリと晴れ、満天の星空と流れ星、天の川、人工衛星などを見ることができました。もう一度登った山頂では、360度の大展望で、高山のすばらしさを満喫することができました。前日の風雨の中での登頂で感じた厳しさや、両方を味わえた登山でした。子どもたちにとって、これまでの3回の登山と合わせて、すばらしい思い出になったのではないかと思います。子どもたちが、これからも山や自然を好きになり、自然環境を守って欲しいと願っています。

三頭山(6月14日)報告

参加者 子ども5名、親御さん1名
スタッフ8名
別働隊 スタッフ(3名)
会員(健常者5名、子ども2名)

緩やかに登り、晴れていると展望の良いところで、子どもたちの記念写真。さらにウッドチップの道を進み、時々現れる甘いモミジイチゴを楽しみながら進むと、三頭大滝に出る。大滝は、比較的水量が多く、滝見橋の上から見て楽しんだ。

今日は、夕方頃夕立のような雨が降る予報だった。予報が当たって、登山中には一度も雨に降られずにすんだ。

曇り空の下、都民の森の駐車場近くで、挨拶と体操をして出発する。歩き始めると、すぐにモミジイチゴの実がなっていた。子どもたちに教えると、みんな喜んで実を摘んで食べている。

ウッドチップを敷き詰めた足に優しい道を



ウッドチップの道でポーズを取る子どもたち

大滝を過ぎると山道になる。清らかな水の流れる沢沿いの道は、しっかり整備されていて、歩きやすい。炭焼きの跡を通り過ぎ、登っていくと、ミソサザイが岩の上で囀っていた。味噌色をしたミソサザイを、子どもたちに見てもら

えて良かった。

野鳥観察小屋への分岐で休憩する。すぐ近くでオオルリの歌声がするが、梢にいるのだろう、見つけることはできなかった。子どもたちは、沢に降りて水の中に何かいないか探し回っている。

分岐から少し歩いたところで、オオルリの声が間近に聞こえたので、近くにいるのではないかと探したら、木の枝に止まっていた。緑の中に、白いおなかを見せて枝に止まっている。前の方にいた子どもたちしか見られなかったが、滅多に見られない青い鳥を見てもらえて良かった。

登山道は沢を離れ、ムシカリ峠へと登っていく。センダイムシクイやヤブサメの音が聞こえてくる。雲の中に入ったらしく、周囲は霧に包まれてきた。

山の斜面をトラバースすると、ほどなくムシカリ峠に到着した。ここから山頂とは反対側にある、三頭山の避難小屋で昼食にする。数人の子どもたちは小屋の中で食べていたが、他は外の方が明るいので、外で昼食を取っていた。

昼食後、山頂に向かう。子どもたちは元気が良く、他の大人のグループを追い越して、ぐんぐん登っていく。ヤマツツジの花が登山道の脇に見え始めると、すぐに山頂に到着した。山頂からは、富士山が見えるはずだが、今日は残念ながら霧におおわれていて見えない。みんな記念写真を撮って、山頂を後にする。



最初の山頂は西峰だが、続いて中央峰、東峰

と縦走し、東峰から下山にかかる。尾根通しの「ブナの路」を歩き、見晴小屋まで少し登る。ここで休憩して、「探鳥の路」を下る。



「探鳥の路」を下っていると、キビタキやジュウイチなどの声が聞こえてきて、「やっぱり野鳥の多いコースなんだな」という声が聞こえてくる。

「探鳥の路」から「回廊の路」になると、斜面をトラバースするようになる。右側が切れているため、子どもたちには注意して歩いてもらう。トラバースが終わると、スポーツ歩道になる。フィールドアスレチックの用具があるが、柱が腐っているため、子どもたちには我慢して下ってもらう。それでも「使用禁止」の張り紙のない網のコースなどを子どもたちは楽しんでいった。

スポーツ歩道を過ぎると、歩きやすい道になる。森林館が見えたが、ここに寄るとバスに遅れるため、そのままバス停に向かう。計画書のバスの時間が間違っていて、30分くらい遅いバスがあったので、それに乗車することにする。都民の森の駐車場で解散とし、15時28分のバスに乗り込んだ。

帰りの電車は、新宿まで直通の方がゆっくり座って帰れると思って、ホリデー快速に乗ったが、立川駅で人身事故があって、乗った電車は立川止まりとなってしまった。振り替え輸送があるということで、多摩川都市モノレールと京王線を乗り継いで新宿駅に向かった。ハプニングがあって、帰宅が大幅に遅れてしまったが、

子どもたちは最後まで元気だった。

コースタイム

硫黄岳(7月4日～5日)報告

参加者 子ども4名
スタッフ8名
別働隊 スタッフ(2名)
会員(健常者3名、子ども1名)

7月4日

昨晚の雨も上がり、新宿駅からスーパーあずさで茅野に向かう。高い山は雲に隠れて見えませんが、雨は降っていないようだ。

茅野駅からバスで美濃戸口に入る。ここから登山開始。長い林道歩きが始まる。最年少のI君は、電車で酔ったせいか、調子が出ないようだ。

美濃戸山荘で休憩し、北沢に向かう。足下には、シロバナノヘビイチゴがたくさん咲き、頭上ではキビタキの軽やかな声が聞こえる。キビタキを探していると、目の良い子どもたちが見つけてくれた。さらに行くと、今度はオオルリが目立つ枯れ木に止まって囀っていた。

林道の終点で休憩すると、子どもたちはうれしそうに沢に降りて遊んでいる。ここから登山道になる。沢に添って登っていく。足下には、キバナノコマノツメが無数に咲いている。山道に入ったら、I君も調子が戻ってきたようだ。

途中で、ルリビタキやコガラが、すぐ近くを飛び交って、楽しませてくれた。何度か橋を渡っていると、雲間から横岳にある大同心の岩峰が姿を見せてきた。滑りやすい沢筋の岩場を通り過ぎ、沢に添って登っていく。今日は、沢の

都民の森(10:40)...三頭大滝(11:10)...三頭山避難小屋(12:15-13:00)...三頭山西峰(13:10-13:25)...都民の森(15:15)

水量が非常に多く感じる。雪解けと梅雨による雨で増水しているのだろう。



順調に登っていくと、木の間から赤岳鉱泉の屋根が見えた。手続きを済ませ、個室に案内していただく。朝食も、通常より30分早くしていただけることになった。

鉱泉に入って汗を流すことができ、とても気持ちよい。風呂上がりに、ミーティングをしたが、盛り上がらないため、子どもたちの夢を少しだけ聞いて終わることにする。その後は、自由時間として、外のベンチでくつろぐ。子どもたちは、小屋の中を探検したり、トランプをしたりしていたようだ。小屋の夕食は、焼き肉だった。

7月5日

夜半に目覚めて、外に出てみたが、雲におおわれていて星空は望めなかった。

朝起きて、上空はどんよりした雲に被われていて、山々は見えなかった。しかし、雨が降っていないだけでもよしとしよう。

朝食を済ませ、6時15分に出発する。沢を3本渡り、金属製の階段から急な登山が始まる。足下には、コイワカガミやオサバグサ、ミツバオウレンがたくさん咲くようになってきた。ル

リビタキやメボソムシクイの歌声も、にぎやかだ。シラビソの樹肌は、鹿の食害で痛々しい。

高度を上げるにつれ、雲が薄くなってきたようだ。麓の方には青空も見え始めている。山頂に着く頃、雲が切れて展望が広がることを期待して、ゆっくりと登っていく。



水滴が美しい

木々の高さが低くなり、シラビソの林からダケカンバの林に変わると、いよいよ森林限界だ。

ハイマツも現れてきた。さらにジグザグに登っていくと、赤岩の頭

に到着した。まだガスに被われていたが、時折周囲の山肌が見られるようになってきた。

スタッフのNさんが足に怪我をしたので、Tさんと一緒に下ることになったという報告がAさんからあった。どの程度の状況か、はっきり分からないが、捻挫や骨折ではなく、擦り傷などの外傷のようなので、大丈夫だろうと判断した。

赤岩の頭付近は、コイワカガミやミツバオウレンの御花畑だ。群落を作って、濃い密度で咲いている。ここから上は、砂礫地で下がよく見えるので、高所恐怖症のK君はちょっと怖いようだ。しかし、頑張っている。

登山道の脇には、イワウメやツガザクラ、イワヒゲ、ミヤマシオガマなどがたくさん咲くようになり、登山者を楽しませてくれる。山頂直下の岩場を慎重に通過すると、広い山頂に到着する。爆裂火口の近くまで行って下を覗いてみる。断崖絶壁の下に、硫黄分の多い斜面が広がっている。

山頂で記念写真を撮った後、硫黄岳山荘まで行ってみる。広い斜面は気持ちよく歩ける。阿弥陀岳が見えてきた。赤岳はあと少しで見えるところまで雲が切れてきたが、まだ山頂は見えなかった。



硫黄岳山頂にて

キバナシャクナゲの群落を過ぎると、コマクサの群落だ。花はまだほとんど咲いていなかったが、つぼみのものがいくつかあった。楽しみだったウルップソウはしっかりと咲いていた。

硫黄岳山荘の周囲は御花畑だ。ハクサンイチゲやオヤマノエンドウ、ミヤマシオガマなどがたくさん咲き、クロユリも二つ咲いていた。山荘付近で少しゆっくり休憩し、来た道を引き返す。ふり返ると赤岳の山頂が姿を現した。

硫黄岳は山頂に寄らず、そのまま下ことにした。岩場は、子どもたちの間にスタッフが入り、慎重に下った。赤岩の頭付近に来ると、赤岳や阿弥陀岳、横岳などが全て姿を現してくれた。



コイワカガミ

下りはスリッパしやすいため、子どもたちに慎重に下ってもらう。それでも、先頭に立ちた

いという気持ちを抑えるのは、なかなか難しいようだ。足下に赤岳鉱泉が見え、金属製の階段を下り、沢を3つ渡ると、赤岳鉱泉に到着だ。ここで、お昼を食べ、北沢沿いの道を下る。



赤岳鉱泉の屋根に座った子どもたち

堰堤のところに来ると、長い林道が始まる。途中、近道をしながら、美濃戸山荘に到着した。美濃戸口で入浴したいという希望もあったが、早く帰りたい人が多く、バスに間に合うように下ることにした。

仙丈岳(8月1日～3日)報告

参加者 子ども5名
スタッフ9名

8月1日

甲府駅は晴れて猛暑だったが、広河原に着くころから土砂降りの雨になってしまった。バスの運転手さんは、このところ、毎日こんな天気だという。

広河原からさらにバスに乗り換え、北沢峠に向かう。北沢峠に着くと、雨は小降りになっていた。数年前まで北沢長衛小屋だった駒仙小屋に、10分ほど歩くと到着する。受付を済ませて、真ん中に土間があるコの字になった畳の部屋に上がり、寝場所を確保する。

子どもたちは小屋の中を偵察し、トランプを

林道は石ころが多く、足の裏が痛くなる。子どもたちは、足を痛くしながらもがんばり、バスの発車3分前くらいに全員美濃戸口に到着した。

今回は、梅雨の真っ最中ながら、雨には一度も降られず、赤岳などの展望もあって、恵まれた山行でした。子どもたちは、楽しい後に辛い歩きが待っていましたが、どう感じたでしょうか？ 感想が楽しみです。

コースタイム

7/4 美濃戸口(11:30)...美濃戸(12:40-13:10)...
赤岳鉱泉(15:25)

7/5 赤岳鉱泉(6:15)...赤岩の頭(8:00-8:15)...硫
黄岳(8:40-8:55)...硫黄岳山荘(9:10-9:40)
... 赤岳鉱泉(11:40-12:10) ... 美濃戸
(13:40-14:00)...美濃戸口(14:50)

始めた。雨が上がると、空に虹が出ていた。明日登る小仙丈岳もよく見えていた。夕方は茜色の雲も見えていたが、明日の天気予報はかなり悪いようだ。いつも午後から強い雨が降るということなので、朝食は弁当にしてもらい、早発ちをすることにする。

8月2日

4時半に起床して、朝食のおにぎりを各自食べたあと、小雨が降る中を出発する。途中で天気がかなり悪くなるようなら、五合目から馬ノ背ヒュッテにトラバースするルートを使って行くこととし、北沢峠からの登りを頑張る。雨が止んだ時は、暑いため雨具を脱ぐが、脱ぐとまた雨が降り出す。そんなことを繰り返しながらも、一合目、二合目と順調に登っていく。雨が降っているが、視界は意外によい。ふり返ると甲斐駒ヶ岳が見えていた。

大滝頭五合目に到着し、少し休憩したあと、

山頂を目指して登る。雨の振りは強くなく、時間的にも早いため、山頂を経由してヒュッテまで、余裕を持って行けると判断した。



小仙丈岳に登ってきたMちゃんとJちゃん

さらに登ると、森林限界になる。下ってくる人が多い。ハイマツが現れ始め、しばらく登ると、小仙丈岳に到着した。小雨が降っていて風もあるが、北岳や間ノ岳はしっかりと見えていた。目指す仙丈岳の山頂は、まだ霧の中だが、下の方が少し見えている。

ゆっくり登ってくるメンバーを子どもたちは震えて待っていた。冷たい雨は、さすがに体温を奪っていく。ゆっくり組が到着して、少し休憩してもらったら、すぐに出発することにする。晴れていれば、気持ちのよい稜線だが、今日は残念な天気だ。それでも、右手には、今日泊まる馬ノ背ヒュッテが間近に見えている。ミヤマダイコンソウなどの高山植物も現れてきた。左手には小仙丈沢カールも見えている。

一箇所、岩場があり、そこはもしスリップすると大変なことになるため、寒くて大変だったが、ロープを出して、子どもたちを確保することにする。子どもたちも、手がかじかんで大変だったが、Hさんが途中でサポートし、1人ずつ慎重に通過してもらう。

そこを全員、無事に通過し、仙丈岳への最後の登りにかかる。右手には藪沢カールの底に仙丈小屋が見えてきた。山頂へは、カールの縁を回るように2つのピークをトラバースしていく。南西方向から冷たい風が吹いてくる。

先頭グループは、山頂に到着したようだ。最

後を歩いていたSさんと、K君、I君、そして私が山頂に到着し、記念写真を撮影する。とにかく、寒いので、下山を急ぐ。慶応の中等部(らしい)の子どもたちも大勢いた。こちらの道は、ミヤマシオガマやコイワカガミなど、高山植物が豊富だ。



風の強い仙丈岳に全員登頂！！

小雨が降っていたため、先頭グループは仙丈小屋の自炊室で休憩していたが、そこも寒いので、早めに下ることにした。藪沢の源頭に添って下り、キバナシャクナゲやクロユリ、ハクサンイチゲなど高山植物を楽しむ。I君はおなが空いたということで、HさんやSさんと一緒に下ってもらう。馬ノ背にかかる頃には、雨もほぼ上がり、正面に鋸岳がよく見えていた。

馬ノ背ヒュッテへの分岐からヒュッテまでは5分ほどだった。ヒュッテの付近は、マルバダケブキやミヤマキンボウゲ、シナノキンバイなどのお花畑だった。小屋に早く着いたので、受付を済ませたあとは、ゆっくりとくつろぐことができた。子どもたちのトランプにも少し付き合い、カレーライスの夕食を食べる。テレビの天気予報によると、明日の北岳は午前中晴れの予報だった。天気が良かったら、明日の朝、もう一度山頂に登って、展望や御来光を楽しむことにして、早々に床についた。

8月3日

夜半、2時過ぎに外に出ると、満天の星が広がっていた。子どもたちも起きてきて、星空を楽しむ。天の川にかかるカシオペアやハクチョ

ウ座などを見ていると、流れ星が次々に流れていく。中1のK君は、20個くらい流れ星を見たいらしい。

3時近くまで見ていたが、起床時間の3時半まで、もう少し布団に入って休む。

2人の子とMさん、Tさんは、小屋に留まるということなので、10人で山頂を目指す。出発した4時には、ヘッドランプを使ったが、すぐに明るくなり、ヘッドランプは必要なくなった。



黎明の甲斐駒ヶ岳

甲斐駒の右側が茜色に染まってきた。少し急ぎ気味に登ってみたが、仙丈小屋に着いた頃、山頂が赤く染まってきた。私たちも、御来光を見ようと、小屋の少し上まで登っていく。すると、昨日登った尾根の上から朝日が差し込んできた。快晴の中での御来光を楽しみ、登山道に一直線に並んで朝食とする。鮭弁当がおいしかった。HさんとSさんは、コンロでお湯を沸かしてくださり、コーヒーをいただいた。

I君は、ここで引き返すということなので、Hさんに一緒に下っていただくことにする。しかし、私たちが少し登った尾根の上の展望が素晴らしいため、I君もそこまで登ってきた。中央アルプスや恵那山、御岳、乗鞍岳、槍穂高から剣立山、鹿島槍ヶ岳、そして白馬岳までの北アルプスなどが雲海に浮かんでいる。もちろん、甲斐駒や鋸岳、八ヶ岳もよく見えている。

I君、Hさんと別れ、元気組は、さらに山頂を目指す。右手には、仙丈岳の影が映っている。影仙丈だ。JちゃんやK君はとても喜んでい



南アルプス南部の山々

山頂に到着すると、南アルプスの山々が広がり、北岳の左手には富士山も見えていた。標高日本一の山と2位の山が並んで見えるのは、この仙丈岳だけではないだろうか？

北岳の右手には間ノ岳が聳え、その右奥には塩見岳が、その後には悪沢岳が山頂を見せ、その右には荒川前岳や中岳が、さらに赤石岳と聖岳や兎岳も見えていた。360度の大パノラマを心ゆくまで楽しむ。山頂まで来なかった子どもたちに本当に見せてあげたかった。



コイワカガミの中に咲くクロユリ

展望をほしいままに楽しんだあとは、写真を撮りながら馬ノ背ヒュッテに向けて下る。馬ノ背ヒュッテで全員揃い、藪沢コースから下ることにする。このコースは、高山植物が非常に多い。タカネグンナイフウロやモミジカラマツなど、次々に現れる。さらに沢は変化に富んでいて、滝を落とす支沢もいくつかあった。ただ、所々、切れ落ちたところもあったため、慎重に下っていく。右岸に渡るところで休憩し、これから悪場があるということなので、子どもたちにはソウンスリングをセットしてもらおう。ただ、

崩れたところには迂回路ができていて、特に危険なところはなかった。

急坂を下り、大平山荘へのトラバースに入っ



ていく。元
気印の K
君は、小屋
まで先に行
って、ザッ
クを下ろし
て迎えに来
てくれた。大
平山荘には
夏の日差し
がたっぷり
降り注い

でいたが、すでに仙丈岳は雲の中に山頂を隠していた。甲斐駒や鋸岳も夏雲の中に姿を隠していた。小屋でゆっくりしたあと、北沢峠に向かう。木陰の中の北沢峠は、とても涼しく、快適な場所だった。ゆっくりとくつろぎ、広河原行きバスに乗り込んだ。

今回の仙丈岳で、「第3回自然と親しむ子ども山登り教室」は終了しました。最後の一日は、今回のどの山よりもすばらしい天気恵まれ

ました。山が最後にプレゼントしてくれたのでしょうか？ これまでよりも、一回り人間的に大きくなったように感じる子どもたちに、これからも夢を持って生きて欲しいなと願わずにはいられませんでした。最後に、短歌を少し。

満天の星におどろく子どもらの
心にひびく流れ星かな

雲海に浮かぶ山々見わたして
このまま時が止まるを願う

馬ノ背の草むらに咲くクロユリの
うつむく花に心安らぐ

深山の山ふところに抱かれて
果てなき夢は峰から峰へ

コースタイム

- 8/1 北沢峠(15:00)...駒仙小屋(15:10)
- 8/2 駒仙小屋(5:25)...大滝頭五合目(7:50-8:00)
... 小仙丈岳 (9:05-9:30) ... 仙丈岳
(11:00-11:10)...馬ノ背ヒュッテ(12:45)
- 8/3 馬ノ背ヒュッテ(4:05)...仙丈岳(5:50-6:10)
...馬ノ背ヒュッテ(7:30-7:55)...大平山荘
(10:40-11:15)...北沢峠(11:30)

自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第2回三頭山）

僕は三頭山を登っておどろいたことがあります。まず一緒にいたスタッフの方たちのことです。スタッフの方たちはぼくのように、ただ登って達成感を感じようと思っているのではなく、たのしみながら登ろうと思っていることです。あとおどろいたのはスタッフの人たちの体力です。みなさんはおとしよりばかりなのに笑いながら登っていたことです。さいごに感じたことは電車にのっているときに、みんなかなりの量のおやつを持っていたからです。電車に乗っている時間が長ければ、「むしろこれはおやつ会」なんて思っていました。次に登る「硫黄岳」ではもっと楽しくいろんな景色を見て回りたいと思います。

K . T

天気予ほうで、雨がふるといっていましたが、だいじょうぶでした。でも、くもりだったので、あまりけしきが見えなくてざんねんでした。でも山をおりて、つかれたけれど、だんごをたべ、おみやげを買って帰りました。次の山登りがたのしみです。 K . I

今回は、2回目だったので、少し安心感がありました。最初の道の、木のチップのふみごこちが最高でした。と中から目の前に広がったきりも、すごかったです。最後下り終わった後は、喜びとつかれていっぱいでした。上りは、中1の男の子が速かったので、少しきつかったです。下りは、上りより楽で、楽しめました。と中見た滝は、はく力満点で、びっくりしました。

橋も、少しこわかったけど、スリルがあって楽しかったです。もう周り一面が緑で、自然がすごかったです。小鳥の声もすばらしくて、見つけられたのでうれしかったです。

山登りのメンバーさん達とは、もう仲良くなれました。一緒に話すと、もり上がって楽しかったです。帰りの電車の事故は、少しびっくりしたけど、その分、友達などと話せて、悪くありませんでした。今回も、色々あったけどとても発見が多くてワクワクしました。次は1泊2日なので、楽しみです。 M . Y

第二回目の伊豆ヶ岳登山が雨で中止になったので、山へ行くのは久しぶりでした。前の日の天気予報を真けんに見ていましたが、当日はなんとか雨がふらなかったのが、本当に運がよかったなあ思いました。と中、大きな滝があったり、濃いきりにつまれたり、山では、思いもよらないことがたくさんあるんだと、改めて実感しました。

次回の硫黄岳も、頂上を目指して頑張ります！ 小5 K . K

今回の三頭山は、「頭が三つってということだから、頂上が3つあるってことかなあ。」と思い、長くて登ったり下ったりするような、きついコースなのかと思っていましたが、予想とは然ちがいが、最初にグーンと上がって、次にちょくちょく登ったり下ったりをつづけて、最後にくだる。という、予想していたよりは楽だったなあと思えました。きつかったのは初めの登りだけだったので、あとは友達としゃべったりしてとても楽しかったです。登りはじめの、木のチップがしいてある道の上を歩いている時には、道のわきに生えている木イチゴの実をとって食べたりできました。山に生えているオレンジ色の木イチゴを食べたのは初めてだったので、もっとすっぱいのかと思っていましたが、その甘さにびっくりしました。また、休けい中に近くの沢で、友達とサワガニをさがしたりもできてうれしかったです。三頭山では、今まで鳴き声はきこえても、姿は見れなかったミソサザイやコルリなどの鳥も見れました。 中1 K . K

自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第3回硫黄岳）

とにかく、高山植物と景色が、すごくきれいでした。ずっと歩き続けてきたかいがあったなぁと思いました。特に、高山植物には、「こんなところにも、小さな命があるんだ」と、感動しました。

でも、やっぱり（毎回のことですが）すごく疲れました。翌日、学校の勉強がほとんど頭に入ってこなかったと思います。

次（というかもう最後！）の仙丈岳も、けがしないようにがんばりたい。 小5 K . K

硫黄岳では、名前に「硫黄」とつくのだから、硫黄のにおいがするのかと思っていましたが、全々そんなことはなく、ただ、頂上では、硫黄がしみついた石があるだけでした。

硫黄岳では、ぼくが初めて見るメボソムシクイやオオルリ、キクイタダキなどの鳥に、鉱山植物のイワカガミやイワウメが見られたのでよかったです。ふもとの方では、グミの木などもあったので、グミの実などを食べれました。 中1 K . K

僕はいままで登った山の中で1番よかったと思います。まず山の風景です。とくに川が山の上のほうに行くにつれてとても冷たくなってのめそうなくらいすきとおっていたことがとてもよかったです。あと山小屋は特に楽しかったです。なぜかというと、まずみんなで枕投げをしたときや、かくれんぼをしたときが楽しかったからです。夕飯のごはんがとくにおいしかったです。だってぼくの好きな焼き肉だったからです。そのあとたべさせていただいたケーキです。あれはとても甘くて最高でした。

でも少し残念だったのがKくんが頭が痛くてきもちわるくなったからです。今回登った山はとてもよかったのもう一度登りたいです。 K . T

今回の硫黄岳は、はじめての1ばく2日の山登りでした。1日目は、小さい石の多いじゃり道をたくさん歩き大変でした。

でも、大きい岩の少しけわしい道の方が楽でした。そして、山小屋に着くと、夕方4時半くらいに野生のシカが見れてうれしかったです。2日目は、森林げんかいに行き空気がうすくてこきゅうするのが大へんでした。でも山頂に行くと楽になり、さい後には、お土産を買って楽しかったです。 K . I

自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第4回仙丈岳）

電車の中、山へ登るワクワクと、初の山小屋というドキドキで、楽しみと不安を感じたのを覚えています。

1日目、初の山小屋に少しコーフン。かなりの早ね早おきにびっくりしました。一番印象に残っているのは、虹がみえた事です。なにか、その虹が「がんばれヨ」って背中をおしてくれたみたいで、勇気が出ました。

2日目、雨と風に囲まれての登山で、怖かった。そして、8月とは思えない程、寒かったです。でも、山小屋に着いた時、皆で頑張った良かった。と、安心感と達成感が心からわいてきて、また、登山の楽しみを1つ知りました。

3日目、2時ごろの、満天の星。プラネタリウムでしか見た事がない程の、天の川。流れ星。人工衛星。いろんな『初めての空』を知りました。・・・しかし、朝起きられず、山小屋で待つ事に。だけど、Mさん達が、一緒に待っていてくれたので、有り難く思いました。

みんなで見た空、みんなで登りきった山。その楽しさと達成感は、絶対に忘れたくない宝物です。

M . Y

今回の山登りの1日目は電車やバスにのり、い動しただけなのでとても楽でした。山登り2日目は天気が悪くてさむい日でしたがなんとか山頂に行けました。でも風雨が強くカメラのバッテリーが切れてあまり写真もとれず風景も見れなくてざんねんでした。

山登り3日目は、真夜中に起きて空を見るとたくさんの星があり、まるでプラネタリウムのように感動しました。その後には朝3時から山を登りきれいな朝日が見れてうれしかったです。景色も2日目よりきれいに見えてよかったです。

来年も山登り教室にできればさんかしたいです。そして、鳥の鳴き声だけで鳥の名前がわかるようになりたいです。

K . I

もう、とにかく星がきれいだったのと、頂上から見えた周りの山々と雲海のこと、絶対忘れません。その他のことで、思い出に残っている、トランプ遊び、甲府から2時間かかって着いた広河原でのすごい大雨、突風で飛ばされそうになった山の斜面、小屋であばれまくって怒られたこと、おいしかった無料の『南アルプスの天然水』、そして高山植物のお花畑などなど、すごくたくさんの体験をもした、仙丈ヶ岳登山でした。

それと、あと不思議だったのは、前回に比べて（前回よりも歩いたのに）全然体力的に疲れなかったことです。山に少し慣れたのでしょうか？ できれば秋、それから来年の山登り教室に参加して、もっと山に親しんでいきたいと思っています。

小5 K . K

自然と親しむ子ども山登り教室親御さんからの感想

前回の硫黄岳に参加できず、Mにとって、初めての山小屋宿泊となりました。出発の準備をしながら少し不安そうな様子のMでしたが、帰ってきた時の顔は、疲れた様子も見せず、3日間の山での話をしてくれました。星がものすごくきれいだったこと、虹を見たこと、ものすごく寒かった時のこと、頂上での写真撮影のこと、山小屋の布団のこと、ロープをつかって降りる時の不安だったこと、ヒュッテの方に怒られたこと、朝起きられず山小屋で待っていたこと、皆でトランプをして楽しかったこと・・・などなど

Mは、体も小さく、全行程ついてゆけるのか、心配でしたが、一度も嫌がることなく、楽しみにして、喜んで参加できたことが、何よりも良かったと思っております。回を重ねるごとに少しずつ高い山へ挑戦し、M自身も少しずついるいるなことに、自信をつけたようにも思います。

最後になりましたが、貴重な経験をさせていただいたこと、すべて、スタッフ皆さんのお力があってこそと感謝しております。本当にありがとうございました。 K . Yさん

今まで、家族で山登りに行きたいと思っていて、なかなか実行に移すことができなかったのですが、今回「子ども山登り教室」があることを広報で知り、良い機会だったので参加させて頂きました。

初めての南高尾山稜の時は、楽しみ半分、不安もあり、私もドキドキしていましたが、帰って来た時は、「楽しかった。みんないい人だった。」と言っていたので一安心しました。

その後の生活でも、多少のつらい事でも「自分はのり越えられる。」という自信がついたように見え、本人も誇らしげに、学校の授業で「私の 」というスピーチをする時間には、登山用のリュックと写真を持って行き、山登りで体験した事をみんなの前で発表したようでした。

森林限界を超えた山に登ったり、山小屋に泊まったり、なかなか経験することができない事ができ、これからの成長に大きなプラスになることと思います。

この様な機会を与えて下さったAさんはじめスタッフの方々には本当に感謝いたします。ありがとうございました。 E . Iさん

「お母さん、満天の星だったんだよ。流れ星も見たよ！ 頂上では、360°のパノラマで、富士山、南、北、中央アルプス、八ヶ岳、ぜーんぶ雲海の向こうに見えたんだよ！」

8 / 3の夜、けがもなく無事に帰ってきた子どもは、興奮気味に仙丈ヶ岳登山の報告してくれました。インターネットで写真を拝見して、本当に素晴らしい経験をさせていただいたのだと感激しています。

Aさんはじめ同行して下さったスタッフの皆様が、子どもたちひとりひとりの安全を守って、導いて下さったお陰です。心より御礼申しあげます。

「安全に山に登って、頂上に立って無事に帰ってくることを今年の子ども山登り教室の目標にしていたのですが、この5回目は、去年のけがの記憶もあり、行く前は少し怖いという気持ちもあったようでした。

昨年、蝶ヶ岳登山をけがであきらめなければならなかった時、Aさんが「山は逃げないから、また挑戦すればいい」と言って下さったそうです。焦らなくても、時間を信頼して、何度でも挑戦していけば、山は待っていてくれるのだなあ、と親の私も子どもを通して教えていただきました。もちろん、子ども自身は、親の想像などはるかに超えるたくさんの方を教わったのだと思いますが！

「山頂からの素晴らしいながめが、目に焼き付いて離れない」と話しています。そのながめは、子どもの目に一生焼きついて離れないでいてほしいと心から願います。

重ねて、A様、関わって下さった全ての方々、一緒に山に登ってくれた仲間の皆様、ありがとうございました。 A . Kさん

以前より私本人が登山に興味があったのですが、仕事等で時間調整が難しく見送っておりました。

3月に入り仕事も落ち着いてきた頃、知人から子供登山の企画を教えてもらい、思わず「いっしょに行ける」親子で共通の話題が持てると早速申し込みました。

全5回のプログラム中の第1回説明会、初顔合わせとゆう事もあり息子も少し緊張気味でした。

登山装備からパッキングの仕方、実際に使用している装備などで説明して頂き大変分かりやすかったです。

いよいよ最初の登山、私も一緒に景信山に挑戦。当日の朝、いつもなら寝起きが悪い息子も幼馴染も一緒に参加する事もあり4時半に自ら起床、びっくりでした。バスを乗り継ぎ、小仏バス停に到着、天候もバッチリ！みんなで自己紹介からストレッチを行いさあ出発だあ～！中1ですが小柄な息子に、ちょっと大きめなザック(32L)を背負わせていた為、少し心配でしたが、子共のパワーってすごいですね、そんな事も忘れて子ども達同士友達になってしまったら、後はGoing My Way！

子供達を先頭に大人がついて行く感じで、途中コースを外れてしまい、走って追いかけて行くハプニングもありましたが子ども達はとても楽しそうでした。

硫黄岳登山の時も、息子にとって、初めての山小屋体験、又2,500mを超える山からの絶景の話家を帰ってきてから細かく説明してくれ「もう一度登りたい！」とても楽しそうに話してくれました。

私自身、景信山と三頭山に同行しましたが普段から運動不足だった為、かなり良い運動になりました。又日頃からの体力作りが大切だなと思いました。

今回の登山教室に参加させて頂いて、全ての山にチャレンジ出来ませんでした、トラブルも無く、無事終えることが出来ました。これもスタッフの方々のご尽力によるものだと感謝しております。

子どもの頃登った山というのはなかなか忘れられないものでしょうし、親子で登山するというのも良い思い出になると思います。そして親として子どもに色々な体験をするきっかけを作ってあげることが大切な事ではないでしょうか。今度は、是非親子2人登山にもチャレンジしてみようと思います。

この度の登山教室に参加して色々な体験・経験が出来本当に良かったです。主催者様、一緒に動向して頂いた皆様、大変ありがとうございました。 K.Tさん

山行報告

赤岳(6月6日～7日)

参加者 会員(障害者4名、健常者11名)

6月6日

家を出る時は雨だったが、大月を過ぎる頃から次第に雨も止み、空が明るくなり、周囲の山も見えるようになってきた。

茅野駅で、全員集合し、バスとHさんの車に分乗して美濃戸口に向かう。美濃戸口からは林道を歩いて美濃戸に向かう。足下には、クサボケやベニバナイチヤクソウが咲いている。ヤマツツジやレンゲツツジなどの木々の花も楽しませてくれる。

おながが空いたという声が聞こえるが、少し辛抱して美濃戸山荘で昼食とする。休憩していると、雨が降り出した。山に近づくにつれて、雨が降りやすくなってきたようだ。山荘で、お茶や野沢菜をいただき、南沢への道を歩き始める。

雨はほどなく止み、カラマツ林を沢に添って登っていく。何度か丸太の橋で沢を渡り、少しずつ高度を上げていく。シロバナノヘビイチゴ

やコミヤマカタバミ、ツバメオモトなどが咲いている。少しだけコイワカガミも咲いていた。

雨も上がり、暑くなってきたので、雨具を脱ぐ。ただ、どこかで道を間違っしまい、沢をつめるように進んでしまった。帰りに確認したら、沢を渡って左岸側に行かなければならないところを沢をそのまま行ってしまったようだ。枯れ沢はやや歩きにくい、方向が間違っていなかったため、しばらく歩いたところで、登山道と合流した。

クイタダキやメボソムシクイが近くに現れてくれて楽しませてくれる。遠くではツツドリの声もした。進行方向に、横岳の一部が見え始めてくると、行者小屋は近い。かなり時間がかかってしまったが、16時45分に行者小屋に到着する。2階の奥が私たちのスペースだった。

落ち着いたところで、明日の予定について相談する。Tさんが登頂を止め、小屋で待つこととし、体力的に心配のあるSさんにNさんが付き添って、いつでも引き返せるよう、文三郎道を行けるところまで行くことで、了解していただく。

夕食を食べた後、こたつに入って語り合い、早々に眠りについた。

6月7日

朝食は6時からということだったので、5時に起きて朝食後すぐに出られる準備をしておく。しかし、5時半から朝食を食べることができて、とても助かった。

SさんとNさんは、朝食後、一足早く出発する。空はすばらしい天気だ。小屋の外からは、北アルプスの槍ヶ岳から穂高岳までよく見えている。

6時20分に小屋を出発する。昨日は、登山道の一部に雪がある程度だったが、今日は雪の上を歩かなければならないところも何カ所があった。

地蔵尾根は非常に急傾斜だ。岩場にかかった梯子を登るようになると、ぐんぐん高度を上げていく。とにかく、転落などを起こさないように慎重に登るが、登りだったことで、ロープを出すこともなく登っていく。梯子を3箇所ほど過ぎ、鎖の付いた岩場を慎重に登り左にトラバースする。この鎖場が一番心配だったが、全員無事に通過した。

ふり返ると行者小屋が下に見え、赤岳鉱泉も見えている。間近に赤岳の山頂も迫ってきた。阿弥陀岳と中岳もよく見えている。横岳の岸壁の向こうには硫黄岳も見えている。遠くには、蓼科山が見え、さらに遠く、北アルプスの山々から、乗鞍岳、御岳まで見えている。今日はすばらしい天気で、展望抜群だ。



地蔵の頭付近を歩く

急な地蔵尾根を登り切るとそこは地蔵の頭

だ。今まで見えなかった富士山が正面に見える。ここで少し長い休憩を取り、赤岳展望荘を素通りして赤岳への最後の登りにかかる。



地蔵の頭付近から見た赤岳

ホシガラスやイワヒバリ、カヤクグリなどを見つけ、残雪のあるところで、Yちゃんと遊んだりしながら、順調に高度を稼いでいく。山頂手前の肩のようなところから、一段降りてさらに登っていく。頂上小屋がすぐ左手に見えるようになると、山頂の一面に飛び出す。頂上小屋のトイレで用を足し、三角点のある山頂に向かう。すると、文三郎道から登ってきたSさんとNさんがいるではありませんか。本隊より早く山頂に着いて、頂上小屋でコーヒーを飲むという。とにかく、みんなで山頂に立ててよかった。



赤岳山頂にて

雲が湧き上がってきて南東部が見えなくなってしまったが、山頂からは、権現岳の向こうに南アルプスの仙丈岳、甲斐駒ヶ岳、北岳がなんとか見えていた。山頂でゆっくり休み、記念写真を撮って下山にかかる。この下りが今回の一番のポイントだと思い、ロープを用意してき

たが、山頂直下を過ぎると、転落してどこまでも落ちるようなところがなかったので、ロープは使用せずにすんだ。そのおかげで、時間をかなり稼げた。

しかし、急な岩場であることには変わりなく、慎重に下る。岩場を過ぎると、文三郎道への分岐に到着する。山頂では一部を雲に隠していた権現岳が、しっかりと姿を現していた。横岳や硫黄岳もよく見える。



分岐からは、赤岳西壁の下部をトラバース気味に下り、長いグレーチングの階段をゆっくりと下り、残雪のある道をスリップに気をつけて下り、ようやく行者小屋に到着した。小屋で待っていてくださったTさんと合流し、昼食タイムとする。直射日光が強く、じっとしていても暑いくらいだ。

小屋からは、早く下りたい人や準備に手間取

豎破山(6月28日)

参加者 会員(障害者3名、健常者6名)

十王駅からタクシーで登山口まで向かう。空は曇り空だが明るいので、雨の心配はなさそうだ。

タクシーの運転手さんは、豎破山なら登山口から20分で登れるとのこと。そのためか、私たちは舗装道路が終わるところで下ろされた。

タクシーを降りたところで、早速、赤いイチ

る人などがいて、3班に分かれて出発することになった。道に迷わないか心配はあったが、山道に慣れた人が一緒なので、準備のできた人たちには先に下ってもらおう。

最後のグループは、花の写真を撮ったりしながらゆっくりではあるけど、頑張ってる。途中で、カモシカが見つかり、全員が合流したが、再び3班に分かれて下っていく。昨日は曇り空で花が開いていなかったコミヤマカタバミが、今日はしっかりと開いて、楽しませてくれる。

美濃戸で全員合流し、あとは三々五々林道を歩いて下る。肩の荷が下りたこともあって、この林道では、オオルリの写真を撮らせてもらったりしながら、マイペースで下らせてもらった。

厳しい岩の道をサポートしてくださったみなさまに、深く感謝申し上げます。

コースタイム

6/6 美濃戸口(11:30)...美濃戸(12:40-13:00)...行者小屋(16:45)

6/7 行者小屋(6:20)...地蔵の頭(7:40-8:00)...赤岳(8:50-9:30)...行者小屋(11:30-12:25)...美濃戸(15:00-15:15)...美濃戸口(16:10)

ゴが迎えてくれた。帰ってから図鑑で調べたら、たぶんニガイチゴだったのではないかと思った。

しばらく林道を、ワラビやマタタビを楽しみながら歩く。モミジイチゴもなっていた。

林道が分岐するところがあり、林道と林道の間に黒前神社と書いたプレートのある登山道らしきものがあったが、ガイドブックに従って、左の林道を進む。すると、すぐに駐車場に着き、そこから登山道が始まっていた。

登山道に入ると、次々に名前が付いたおもしろ

ろい形の石が現れる。不動明王が祭られた不動石、次は鳥帽子石、手形石、畳石と続き、あかねやき釜というめずらしい炭焼きの釜を見ると、弁天池に到着する。東屋もあったが、暗くて休む気にならないので、そのまま進む。



新しい仁王門に向かう階段を見送り、一番おもしろい形をした太刀割石に向かう。太刀割石は、大きな丸い石を刀でスッパリと切ったようなおもしろい形をしている。しかも、割られたもう一方のような石がすぐ近くに立っているので、なおさら興味をそそられる。どうして、こういうところに突然、こんな石があるのか不思議だ。

シメジのようなキノコがあり、「これはエノキだ」という声もあったが、眉唾物だ。羽化したばかりのようなきれいな蛾は、オナガミズアオだったのではないだろうか？

いろいろ楽しみながら歩いていると、黒前神社に到着した。ここには、甲石があり、石の上に樹木が生長していた。樹木の生命力に驚く。ここから今日一番の急登となる不揃いな石段が始まる。上り着いて、もう少し行ったところが展望台のある豎破山山頂だ。豎破山の「豎」は、堅いという字ではない。しかし、小さな標

識は、豎破山になっていた。本当の字を知らない人が書いたのだろうか？



展望台に上がると、曇り空だが視界は意外に良好で、高鈴山や神峯山が見えていた。遠く、日光の山々も、木の影に見えていた。

記念写真を撮った後は、不揃いな石段を通らないでよい道はないかと思っていたら、ちょうど斜め左にトラバース気味に降りる道があったので、そこを下ると、黒前神社に飛び出した。下りは、仁王門を通り、来た道を引き返す。寄り道せずに下ると、あっという間に林道に飛び出した。それでも、タクシーの運転手さんとの待ち合わせ時間にあと20分しかないので、少し急ぎ気味に引き返す。

運転手さん達は、私たちが待っている間に、ワラビを10数本取っていた。

地味な山でしたが、イチゴと、オオルリ、ヤブサメ、ホオジロなどの野鳥の歌声、そしていろんな石を楽しんだ一日でした。

コースタイム

舗装道路末端(10:40)...林道分岐(11:10)...豎破山(12:30-13:00)...舗装道路末端(14:00)

富士山御中道(7月12日)

参加者 会員(障害者5名、健常者15名)
会員外(障害者1名)

梅雨の真っ最中で、予報もコロコロ変わり、
天気心配されたが、予想以上に良い天気恵
まれ、展望や高山植物を楽しめた。

河口湖から富士山が見えたが、山頂は雲に隠
れている。しかし、天気はまずまずだ。河口湖
からタクシーに分乗して五合目まで行く。

五合目でトイレなどを済ませ、御中道を歩き
はじめる。最初は、樹林帯だ。足下にはマイツ
ルソウなどが咲いている。さらに行くと、ハク
サンシャクナゲが咲き、コケモモやベニバナ
イチャクソウも咲いている。この3種の花は、今
回、たっぴりと見ることができた。



ベニバナイチャクソウの群落

ルリビタキやメボソムシクイの声を聞きな
がら歩いていると、展望の良いところに飛び出
した。南アルプスの赤石山脈が目の前に広がる。
北岳や赤石荒川三山などの高山は、山頂を雲に
隠していたが、甲斐駒や仙丈岳、塩見岳、聖岳
などは山頂も見えていた。雲の間に間に山々が
浮かび、青空も見えて、とても気持ちの良い展
望だ。今回は、山頂がないので、展望の良いと
ころで、南アルプスをバックに記念写真を撮る。



南アルプスを背に

カラマツの松ぼっくりや稚樹などを楽しみ
ながら、歩いていくと、寄生火山のところに出
る。荒廃した御庭山荘を通り過ぎ、少し行くと
下降にかかる。御庭で昼食の予定だったが、予
定よりも早いため、奥庭でたっぴりと時間を取
って、昼食にすることにした。



御中道を歩く

スバルラインを横切り、少し下ると奥庭だっ
た。ここには、野鳥たちが水浴びに集まる水場
があるため、いつも野鳥写真を撮る人たちが望
遠レンズで構えている。そこを通り過ぎ、小さ
な広場で昼食にする。

昼食後は、遊歩道を散歩する人たちと、野鳥
を見る人たちに別れてゆっくりする。水場には、
ウソ、ヒガラ、ルリビタキが代わる代わる訪れ
ていた。

三合目へは水場の脇を歩いて下っていく。整
備された今までの道と全く違って、完全な山道
だ。しかも、倒木が多い。標準タイム1時間の
ところを高速バスの出発まで45分の余裕を
見て出発したのだが、だんだん余裕がなくなっ
てきた。

精進口登山道との合流点に、高速バス発車の
20分前に到着。御庭の売店の方に、ここは真
っ直ぐ行くようにと言われてきたが、真っ直ぐ
の道は進入禁止の標識があったため、先頭は右
側に行ってしまったが、すぐに引き返してもら
い、真っ直ぐの道に行く。

ここから、道が歩きやすくなったことでペー
スも上がり、バスの出発時間5分前に3合目バ
ス停に到着した。何も無い3合目で1時間近く

待つのは申し訳ないと思い、奥庭でゆっくりしたが、結果は失敗だった。

また、今回は、新宿から五合目に直接行く高速バスが満員だったため、全員に連絡したと思ったが、Sさん親子が聞いていなかったということで、これも失敗だった。今後の反省事項に

鹿島槍ヶ岳(7月25日～27日)

参加者 会員(障害者4名、健常者8名)
会員外(健常者3名)

7月25日

信濃大町からタクシーに分乗して柏原新道の登山口まで行く。登山口に近づくと雨が降り出してしまった。暑くてしょうがないが、雨具を付けて出発する。

少し登ると、扇沢のバスターミナルがよく見えた。最初の登りは、ジグザグの急登で、みんなびしょり汗をかく。ケルンまで行けば、傾斜も落ちるだろうと、高度計を見ながら登っていく。

ケルンに着くと、ガイドブックの通り、種池山荘が見えた。ここから傾斜は落ちてくるが、がれ場があったり、石畳があったりして、視覚障害者の人には歩きにくくなる。慎重にサポートして登っていく。登山道脇には、クモニガナやシロバナノクモニガナ、ヨツバシオガマなどが咲いていた。

水平のトラバース道に入ると、グッと楽になるが、そろそろ体力的にきつくなってくる人も出てくる。荷物を分担しながら登っていく。左手には、蓮華岳と針ノ木雪渓がよく見えるようになってくる。種池山荘もグッと近づいてくる。

しかし、この頃になると、雨と共に雷も聞かれるようになってきた。まだ樹林帯だから心配はあまりないが、近くに落ちないで欲しい。山

したいと思いますので、これからもよろしくお願ひします。

コースタイム

五合目(10:05) ... 御庭(11:20) ... 奥庭(11:50-13:30)...三合目(15:05)

荘直下の登りに入る前の雪渓は問題なく通過できたが、その前後のガレ場の方が厳しく、慎重に通過した。

最後の登りを頑張ると、コバイケイソウの御花畑が広がる種池山荘下に出た。雨のため、直ぐに小屋に入り、乾燥室で雨具などを乾かす。

7月26日

朝食が第2陣の6時となったため、ゆっくり起きる。朝の天気は、まずまずのようだが、厚い雲もたれ込めていて、剣立山方面の展望はよくない。それでも、コバイケイソウの御花畑の向こうに、今日登る爺ヶ岳の南峰が見えていた。蓮華岳も山頂が見えている。

朝食後、小屋の前で記念写真を撮って出発する。



爺ヶ岳への登りは、危険なところもなく、まさに稜線漫步だ。晴れていたら展望もすばらしいのだが、今日も、岩小屋沢岳方面はよく見え、剣立山も、雲の下に雪渓を見せている。小窓雪渓や三ノ窓雪渓が、よく見える。これから向かう冷池山荘も見えている。また、この付近は、

ミヤマダイコンソウやハクサンシャクナゲが多かった。



種池山荘を背に爺ヶ岳に向かう

爺ヶ岳の南峰は山頂には向かわず、巻き道を利用して、次の中央峰の山頂に立つ。雲が多く、どんよりしているが、時折日の差すところもあり、まあまあ天気だ。麓もよく見えている。

中央峰を後にして、北峰を巻きながら下っていく。冷池山荘がどんどん近づいてくる。瓦礫のところにはコマクサが咲いていた。タカネバラやコゴメグサも咲いている。黄色いスミレは、クモスミレのようだ。

赤岩尾根への分岐を過ぎるとすぐに冷池山荘に到着する。受付を済ませ、不要な装備を預かっていただき、少し身を軽くして鹿島槍ヶ岳に向かう。



爺ヶ岳中腹から見た剣立山連峰

テント場を過ぎて少し登ると、お花畑が広がっていた。チングルマ、ミヤマキンバイ、シナノキンバイ、ミヤマキンボウゲを中心に、クルマユリやショウジョウバカマも咲いていた。少し行くとキヌガサソウの群落だ。樹林帯を過ぎ、森林限界を超えた山稜を登る。剣岳が

あと一步で山頂が見えるところまで来たが、完全に山頂が見えたかどうかははっきりしなかった。目指す鹿島槍も、一瞬だけ南峰の頂を見せてくれた。



色鮮やかなタカネバラ

布引山を過ぎたところで、昼食を食べる。近くには、チシマギキョウやイワベンケイ、ミヤマクワガタ、タカネヤハズハハコなども咲いていた。



鹿島槍ヶ岳山頂にて

最後の苦しい登りを踏ん張り、全員が山頂に到着した。誰からともなく、バンザイの声が上がる。念願だった鹿島槍の山頂に立った人は、握手をしあって感激している。

一瞬だけ北峰が姿を現したが、周囲は霧に包まれて何も見えなかった。それでも喜びの一時を写真に収めてから下山にかかる。霧の中で、時折雨の降る天気なので、雷が心配だ。

雨の降る中を順調に下り、風の来ない東面に入ったところで休憩し、あとは冷池山荘を目指してひたすら下る。お花畑を過ぎ、テント場を過ぎると、冷池山荘の屋根が間近に見えてくる。

ここでも、乾燥室で濡れたものを乾かし、登頂を祝って乾杯とする。

7月27日

明け方から雨が降り始め、起きた時にはかなり激しく降っていた。朝食を済ませ、完全装備で外に出る。今日は、カメラもビデオカメラもザックの中にしまい込んだ。

雨の中を爺ヶ岳北峰に向かって登っていると、なんと、剣岳が山頂を見せている。昨日の曇り空で見えなかった山頂が、こんな雨の中で見えるとは、きっと剣が、また来いよと私たちにエールを送ってくれたのだと思いたい。剣岳は、すぐに厚い雲に被われて隠れてしまった。

昨日、来た道を引き返す。危険なところはあまりないが、切れたところは注意しながら通過する。ライチョウが多いといわれる爺ヶ岳だが、今回も見ることができなかった。もう、どこかに住処を変えてしまったのか、それとも・・・。

種池山荘では、自炊室に入らせていただいて休むことができた。150円のインスタントコーヒーを頼み、体を温める。

ここから、しばらくは石が敷かれたような整備された道だが、雪渓近くのガレ場や石畳などを注意しながら、慎重に下っていく。さすがに

大滝沢(8月9日)リーダー養成コース

参加者 会員(健常者5名)

昨夜は、峠駅でテント泊まり。スーパーで食材を買い込んで、おいしい料理に舌鼓を打ち、翌日の好天を期待して早々にテントに潜り込んだ。夜半に、千葉山の会の方たちが見えて、しばらくにぎやかな宴会をやっていたようだが、こちらはかまわず、ぐっすりと寝ていた。ただ、駅舎の屋根を叩く雨の音に、今年も登れないかなという気持ちが湧いてきていた。

朝、4時過ぎに起きると、ほぼ雨は止み、霧

膝の笑う人も出てきたが、頑張っ下っていく。ほぼ登山口に下りる時間が見えてきた頃、タクシーを呼んだ。雨具を脱いでタクシーに乗り込み、薬師の湯に運んでもらう。短時間だったが、汗を流し、すっきりして大町の駅に向かった。

駅でも忙しく、バタバタしていたので、感慨に浸る余裕もなく、ホームに出る。天気の良いなかった3日間だったが、多くの高山植物に出会い、全員が登頂できてよかった。お疲れさまでした。

コースタイム

7/25 柏原新道登山口(11:55)...ケルン(13:20)
...種池山荘(16:20)

7/26 種池山荘(6:40) ... 爺ヶ岳中央峰(8:00-8:15)...冷池小屋(9:45-10:15)...布引山(11:55-12:15) ... 鹿島槍ヶ岳(13:15-13:25)...冷池小屋(15:10)

7/27 冷池小屋(5:40)...種池山荘(7:50-8:25)...登山口(12:20)

雨状態だ。とにかく、沢の出合に行ってみて、水量などを確認してから判断することとし、朝食の雑炊を食べて、滑川温泉まで移動する。

出合の水量は、昨年中止にした時と比べるとはるかに少ない。千葉山の会の方とも相談し、桶木沢から登山道に出ることにして、遡行を開始することにする。

橋から沢に下り、少し行くと早速、2段15m滝が現れる。この滝の途中には、右側の沢が滝となって落ちている。

この滝に取り付くために千葉山の会の方たちは、釜に入って取り付く人と、左の壁をトラ

バスして取り付く人がいたが、我々は寒いので、トラバースする方を採用させていただいた。



釜をへつって滝に取り付く千葉山の会の人たち

一段上がったところで、千葉山の会の人たちは水流の左側の壁を登っていったが、Hさんはそちらは難しいからと言うことで、水流の右側から登るルートを取ることにした。NさんとTGさんは、Hさんに付いていったが、千葉山の会の方がロープで確保してくださるということなので、甘えて、私とTKさんは左側を登ることにした。確かに、最後の部分がホールドやスタンスが少なく、滑りやすくシビアだった。右側を登ってきたNさんとTGさんにも千葉山の会の方はロープを使用させてくださり、最後の流れを渡るところでロープを使用させていただいた。

そこを過ぎると気持ちの良いナメが続く。天気が良かったら、どんなに気持ちがいだろう。今日は、あいにくの天気で、寒くて水の中にはあまり入りたくない。しかし、泳がないと越えられない広い釜が現れた。意を決して、次々に泳いでいく。この沢を何度も経験しているHさんがこちらに来いと言っているのに、従わずに千葉山の会の人たちが行く方に行くメンバー。Hさんの嘆きが聞こえてきました。言うことを聞かないといけませんね～。

さらにナメを行くと、見えてきました。日本の滝100選に選ばれている100mの落差を持つ大滝が。霧がかかって落ち口が見えなかったが、一瞬日が差してきて、落ち口も見えてきた。さすがにすばらしい滝だ。

Hさんは、何か反省することがあったのだろうか？ 滝に打たれている。天気が良くて暑い日なら私も打たれてみたかったけど、今日は寒さが身に應えるため、止めておく。

休憩のあと、千葉山の会の方たちに続いて、高巻きに向かう。高巻きから見る大滝は、全体が良く見渡せて、一層迫力があつた。ぐんぐん登ったあと、ルンゼをトラバースするところが2箇所あるが、千葉山の会の方は、そこにロープを固定し、私たちにも使わせてくださった。踏み後はしっかりしているが、草つきだけのため、滑ったら100m下まで落ちてしまうところなので、大変ありがたい。千葉山の会のみなさまの配慮に感謝の気持ちでいっぱいです。

大滝を過ぎると、ナメや釜が次々に現れ、楽しい沢登りが続く。ただ、次第に雨が降り続くようになってきた。本降りになる前に沢を抜きたいと思う。ネコの沢を過ぎ、さらにホラ貝沢を過ぎる。



ナメのすばらしさにバンザイ

ねじれるように途中で曲がった滝は、ひょんぐりの滝だろうか？ 記憶が曖昧なので、滝の順番も分からなくなってきたが、倒木を足場にして滝の右壁を登ったり、泳いで取り付いたり、次ぎ次ぎに現れてくる滝を超えていく。最後の大きい滝は、13m滝だろうか？ その手前で昼食を食べ、ロープを出して水流の右側を登っていく。この沢は、鉄分を含んだ水が流れているため、コケが生えにくく、フリクションがよく利く。多くの滝を快適に登れるのがうれしい。



13m滝を登るTさん

この滝を過ぎると、沢はゴーロが多くなる。大きな石を越えていくのは、なかなか疲れる。吊り橋のあとを過ぎる頃には、まだ桶木沢に着かないのかという声が出始める。

ようやく桶木沢に到着。ここから桶木沢を登り、5分ほどで登山道に合流する。

登山道で、着替えたり靴を履き替えたりして、下山にかかる。時間もかなり押し迫っているため、早く下りたいが、この登山道は一般道でありながら、片側が切れ落ちて狭い道が傾斜

八子ヶ峰(8月30日)

参加者 会員(障害者4名、健常者10名)
会員外(健常者2名)

茅野駅から蓼科高原ラウンドバスに乗って、ピラタスロープウェイ経由で蓼科山登山口まで行く。バスに乗車中に雨が降り出したため、車内で雨具を付ける。しかし、バスを降りた時には、雨は降っていなかった。

現地集合の人たちと合流し、自己紹介をして歩きはじめる。まずは樹林帯の道を登り、しばらくすると木の階段となる。ここが今回、一番の急登だったろうか？ さすがに暑くなり、雨も降っていないので、雨具を脱ぐ。

しているところが何カ所もあり、息が抜けない。しかも、岩が濡れていて、非常に滑りやすい。私も一度転んでしまった。それでも、1時間ほどで、滝見台に到着。大滝が霧の中に見えた。

雨が本降りになる頃、滑川温泉に到着した。温泉に行くと、千葉山の会のみなさんは、すでに風呂から上がり、帰るところだった。お礼を言って別れ、私たちも温泉に入る。夏なのに、心底温まる気持ちの良い温泉だった。

温泉から上がり、Hさんの運転で、渋滞の激しい東北道に乗り、帰路に就いた。疲れた身体で、1人で運転してくださったHさん、本当にありがとうございました。

コースタイム

大滝沢出合(7:00)...大滝下(8:15-8:30)...ホラ貝沢(10:20)...13m滝手前(11:20-11:40)...桶木沢(13:40-14:10)...滑川温泉(15:30)

階段を上がると、草原が広がりはじめる。次第に雲も薄く明るくなってきた。マツムシソウやハクサンフウロ、トリカブト、アキノキリンソウ、ツリガネニンジン等々、秋の花たちが迎えてくれる。Nさんは、キベリタテ八を見つけ、手に止まらせている。霧が晴れてきて、麓の町も見えるようになってきた。



気持ちの良い草原を歩く

行く手には、三角屋根のヒュッテ・アルピレ

オが見えてきた。ヒュッテの前で休憩する。雲がかかっているが、八ヶ岳南部の麓も見えてきた。ヒュッテの裏側には、横岳や縞枯山も見えてきた。さらに青空が広がることを期待して、先に向かう。



マツムシソウに止まったクジャクチョウ

この稜線は、草原が広がっていて、とにかく気持ちの良いところだ。草原に咲く秋の草花を楽しみながら歩く。種類は知らないが、アザミやタムラソウ、ウメバチソウ、ワレモコウも咲いている。東峰に着くと、大勢のグループがお昼を食べていた。我々は、八子ヶ峰（西峰）でお昼にすることにして先を急ぐ。東峰からは樹林帯となり、足下の岩が滑りやすい。滑らないように注意しながら下っていく。下りきって、登り返したところが八子ヶ峰だと思って、ここで昼食とした。ところが、ここは名前のない途中のピークに過ぎなかったことをあとになって知った。

霧に巻かれて展望はないが、昼食を食べつつ、マツムシソウやワレモコウなどの花を楽しむ。少し行くと、右側にスキーのリフトが見えてきた。この時点で、地図と違うのではと思ったが、ここから少し行ったところに八子ヶ峰の本当の山頂があって納得した。

八子ヶ峰山頂付近は、マツムシソウを中心にしたすばらしいお花畑だった。マツムシソウには、クジャクチョウが何匹も止まっていた。ゆ

っくりしたいすばらしい場所だったが、時間が大幅に遅れていることもあり、集合写真だけを撮って、すぐに出発する。



八子ヶ峰山頂にて

カワラナデシコやオトギリソウなどもたくさん咲き、アキアカネが舞って、さらに蝶もいろんな種類を見られた。八子ヶ峰公園でトイレを済ませ、レストランの左脇を下る。ツリフネソウやフシグロセンノウもたくさん咲いていた。

最後の別荘地域は、道路が入り組んで、案内板もないため、かなり右寄りに進んでしまったようだ。そんなこともあって、南白樺湖のバス停に予定のバスぎりぎりの時間に着いたが、すぐに来たバスは反対方向に行くと思って見送ったが、それが予定のバスだったようだ。ただ、予定のバスは、遠回りのため、料金も時間も多にかかるとのことで、1時間ほど待つて次の茅野駅行きバスに乗車することにした。

最後はバタバタしたが、非常に多くの秋の草原の花を楽しめた一日でした。

コースタイム

蓼科山登山口(11:05)...ヒュッテ・アルピレオ(11:45-11:55) ... 東 峰 の 次 の ピ ー ク(12:25-13:00)...八子ヶ峰(13:35)...八子ヶ峰公園(14:35-14:40)...南白樺湖(15:15)

リーダー養成コースの真名井沢は雨のため中止しました。

その他事業報告

第3回ふれあいキャンプ(氷川キャンプ場)(8月22日~23日)

参加者 会員(障害者6名、健常者7名)
会員外(健常者7名)

8月22日

第4回目となる今回は、これまでと比較し、参加が少なかった。これは、申し込みのあったあと、都合が悪くなり、キャンセルとなった方が6人いたためだ。昨年より少なかったものの、4人の子どもたちが参加し、会員外の大人の方も4人の参加があった。

昨日までの晴天ほどではなかったが、今回はまずまずの天気だった。奥多摩駅から歩いてキャンプ場へ移動する。このキャンプ場は駅から近いので、とても便利だ。

キャンプ場の受付を済ませ、バンガローに荷物を置いて、河原で昼食とする。シートを広げて持参した弁当を食べるが、子どもたちは早く泳ぎたくてうずうずしているようだ。



多摩川で楽しく泳ぐ

水着などに着替えて、川に入っていくがさすがに水温は冷たい。子どもたちは、まずは対岸に行って、魚を探している。その後泳ぐが、流れに逆らって泳いでも、なかなか進めない。流

れは、かなり強い。大きな岩のところに行くには、途中かなり深いところがあるため、まだあまり泳げないR君をおんぶして泳ぐ。親亀の背中に子亀という感じだ。

対岸の岩からそれぞれ飛び込みはじめた。外気温もそれほど高くないため、とにかく寒かった。1時間半近く遊んで、上がることにした。その前に、Hさんが河原でたき火をして、みんなを温めてくれた。シャワーもあったが、有料なので、あまり使う人はいなかった。

キャンプ場から布団と毛布、それに鍋や釜などを借り、食事の準備にかかる。ギターを持ったKさんとNさんもキャンプ場に到着し、全員揃う。小6のMちゃんは、料理づくりを手伝ってくれる。焼きそばやカレーライスを作りながら、乾杯とする。



夕食が始まった

周囲が暗くなってきた頃、河原におり、キャンプファイヤーをする。まずは、子どもたちのスイカ割りだ。二つのスイカを子どもたちがチャレンジし、最後は大人の人にもやっていただいた。割ったスイカを食べながら、Kさんのギター演奏も始まり、いつもながらの懐かしのメロディーを楽しむ。

夜も深まり22時を過ぎた頃、バンガローに戻って眠りについた。子どもたちは、まだランプをしていたようだ。遅くなってHさんに叱られていた。

8月23日



朝は、お粥とパンだ。スクランブルエッグやサラダなど、トッピングメニューもいろいろあっておいしい。夜更かしをしていた子どもたちは、なかなか起きず、とくにI君は、朝食を終わっても起きてこなかった。

食後の後片づけをし、布団などをみんなで管

NHK - FMラジオ「まるごと千葉60分」出演しました

6月3日(水)千葉県内で放送された「まるごと千葉60分」に網干が出演させていただきました。視覚障害者のサポート方法など、いろいろな質問をいただき、それに答える形で説明し

理棟に運ぶ。最後に、川の前で記念写真を撮って、キャンプ場の出口で解散とした。

今回は初めての場所でしたが、多くの方のご協力で、無事に実施することができました。ご協力に深く感謝申し上げます。

T・I君からの感想！

奥多摩キャンプ楽しんだ。また行きたいと思います。川は、凄いい冷たいかった。けどバンガロウで深夜の2時位まで遊んで楽しかったです。あとキャンプファイヤーも楽しかったです。

ました。今後、千葉方面の山を計画した時は、もしかしたら取材に来ていただけるかも知れません。その時は、ぜひ多くの方のご参加をお願いいたします。

個人山行報告

真名井沢(7月20日)

参加者 会員(健常者5名)

上日向のバス停の先の橋を渡ったところに車を置き、林道を歩く。途中、右手にある北稜の下山路を確認する。送電鉄塔の巡視路の標識があるところに下りてくることになるはずだ。

林道を少し歩くと、とりがや橋に到着する。ここから真名井沢の方に入っていく。ワサビ田がいくつもあるようだ。少し行ったところで、沢用に足ごしらえをする。ハーネスなども装着しておく。

沢の中に入って、ひたひたと登っていく。先頭はクモの巣払いの役目も負うことになるが、

何度かクモの巣が手にまとわりついて気持ち悪い。気持ち悪いと言えば、ツチガエルだろうか何度も大きなカエルが現れた。しかも、足下に何かがくねっているなと思ったら、なんとヤマカガシがカエルを掴まえてかみついていたのだ。こちらは、びっくりして悲鳴を上げて引き下がった。ヤマカガシに飛びかかってこられたら溜まらないところだった。ヘビもこちらにびっくりしたのか、カエルを取り逃がしてしまった。

そんなことがあって、ちょっと萎えた人もいたが、小滝が次々現れて少しずつ楽しくなってくる。しかし、木々の葉に被われ、しかも雲天

の今日は非常に暗い。

本流が左に折れ曲がったところが二俣だった。その先にF 1があることを確認して、休憩とする。F 1は水流の右側の壁を登る。一箇所だけハーケンが打たれていた。ここはロープを出して全員が登る。上部は、あまりがっちりとしたホールドがないが、スタンスを信頼して登っていく。

5 m程度の滝が現れたが、これがF 2だろうか？ 水流の左側が簡単に登れそうだったが、釜が深くて近づきにくい。Fさんのアドバイスで、右側の壁をトラバース気味に滝に近づくことにする。かぶり気味になったところで、一段下に下がったら、簡単に登れた。ここは、みんなノーザイルで登っていく。



沢の流れに沿って登る

小滝を楽しく登っていくと、奥の二俣に到着。遡行図どおり、小滝が二つあり、左に大きな岩があった。そこからしばらく行くと倒木が増えてくる。その後も、2箇所ほどザイルを出して確保しながら登る滝があった。

高度計が1,000m位になり、F 3はもう過ぎてしまったのだろうかと思っていたら、最後に、ガイドブックの通り、黒くぬめった滑りやすい滝が現れた。ここもザイルを出し、突破する。ここを過ぎると、もう沢登りというより、落ち葉に被われた土の急斜面という感じだ。足場がズルズル崩れ落ちそうだが、とにかく滑るより

も早く登るぞと頑張る。

みんな体力的にもきつくなってきているため、急な斜面が終わったところで、30mのロープを太い木に固定し、それに掴まって登ってもらうことにする。



沢登りを終えて

最後の急斜面を登ると、そこが真名井北稜だった。みんなで労をねぎらって、沢装備を外し、登山靴に履き替える。

ここから北稜を下る。しっかりと踏み後はあるが、一般道ではないため、尾根の分岐などでは、赤や青のテープを探しながら下った。送電線の鉄塔が見えるところに出たら、高水三山や御岳山の展望が広がる。新宿方面も見えていたようだ。ここからも、ルートに注意し、鉄塔や送電線を確認しながら下る。少し膝が痛くなりかけた頃、林道に到着した。

沢の中は暗かったのですが、なかなか充実感のある沢でした。最後は、もえぎの湯で汗を流して帰りました。

コースタイム

上日向(9:35)...とりがや橋(10:00)...遡行準備(10:10-10:25)... F 1 下(11:15-11:30)... F 1 上(12:00)... 昼食(12:35-13:10)... 奥の二俣(13:30)... 真名井北稜(15:45-16:00)... 上日向(18:00)

各種連絡事項

やちよ市民活動センターまつり「こんにち‘わ’ふれあいまつり」に参加予定

第6回目となる八千代市の「こんにち‘わ’ふれあいまつり」が、11月23日に行われる予定です。今年も、写真などを展示してPRす

る予定ですので、都合が付きましたら、ぜひご協力をお願いいたします。

千葉県「千葉県市民活動フェア in きぼーる」に参加予定

「千葉県市民活動フェア in きぼーる」が今年も開催されます。日程は、11月20日(金)の午後から21日(土)です。こちらも、写真

などを展示してPRする予定ですので、ぜひご協力をお願いいたします。

エコ口福祉基金1次審査通過

生活クラブ生協が実施している「エコ口福祉基金」に、今年度の「自然と親しむ子ども山登り教室」に協力していただいているスタッフの交通費や宿泊費の一部補助を申請していましたが、1次審査が通り、最終審査となる公開プレゼンテーションに進むことになりました。

10月3日(土)に実施され、理事長がプレゼンテーションを行います。

審査が通って、費用のかかる役割を全くのボランティアで行っていただいていたスタッフのみなさんに、いくらかでも補助できたらと願っています。

千葉教育大賞に応募

千葉日報が募集している「千葉教育大賞」に、「自然と親しむ子ども山登り教室」を応募します。学校などとの連携がなく、受賞は難しいのですが、子どもたちが山を好きになり、いろいろな新鮮な体験ができたことは、子どもたちにとっても良い影響があり、小粒でもぴりりと辛い活動ではないかと思っていますので、そんな活動を行っている団体があることを教育関係の方

に知っていただくだけで十分だと思っています。

子どもたちを「山」という危険なところに連れて行くという、大きなリスクをみんなで背負って、子どもたちに貴重な経験をしてもらうことは、誰でもできることではありませんが、これからの社会に、重要性が高まるのではと思っています。

事業計画の日程変更

「千葉県市民活動フェア in きぼーる」への参加に伴って、11月21日に予定していた明星ヶ岳を11月3日(火、文化の日)に変更させていただきます。また、11月7日(土)に予定していたガキ大将の森ふれあいハイキング

ですが、場所の確保の都合で、10月31日(土)に変更させていただきます。来年1月30日(土)から31日(日)に予定していた湯の丸高原は、事務局の都合で、2月6日(土)から7日(日)に変更させていただきます。

会員情報

新入会員のお知らせ

6月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしく申し上げます。(敬称略)また、2

名の方が新たに賛助員になってくださりました。

正会員（2名）

編集後記

・理事長のつぶやき

今年も、「自然と親しむ子ども山登り教室」が無事に終了しました。この教室は、「教室」という名前を付けていますが、子どもたちに山のノウハウを教えるのではなく、スタッフは黒子に徹して、子どもたちにあるがままに山の自然を感じてもらいたいと思って続けてきました。子どもたちは、大人がコントロールしようと思えば思うほど、その時は言うことを聞いても、逆の方向に行ってしまう場合もありますし、大人の顔をうかがって合わせていると、それが大きなストレスになったり、自分というもの

を見失ったりしてしまいます。

この教室は、山の自然が最高の先生です。スタッフは、子どもたちの安全を守り、聞かれたら答えるというスタンスを大切にしています。

主役は子どもたちですし、ちょっと羽目を外して、他人から叱られても、大人が謝って済む程度のことでですから、いくらでも謝りたいと思います。それよりも、子どもたちが生き生きと、山の自然や人の温かさを肌で感じる事が、遥かに大切なことですし、そんな方向を向いて、これからも進めていきたいと思ひます。

・次回発行予定は、12月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても

